

2017年度学校自己評価

東海大学付属市原望洋高等学校

評価5～1は(5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	<p>①各分掌間で連携を図りながら、様々な活動内容の定着をめざす。</p> <p>②教科指導の充実、進路志望に伴う具体的な指導への取り組みや規範意識の育成に向け達成目標を設定し、実践する。</p> <p>③生徒・保護者との信頼関係を深める。</p> <p>④本校独自の特色ある教育の実践をめざす。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新制服導入、施設リニューアル(教室棟および体育館)などの取り組みが「学校改革」として評価された。 ・ICT環境整備(電子黒板とタブレット端末の導入)が進んだことで、教員の授業力向上と生徒の主体的な学習への取り組みに一定の成果がみられた。 ・ICTを活用した教育への取り組みは、特に保護者からの注目度が高く、アンケートでも高評価を得た。 ・教科指導の充実を図るため、各教科で研究授業を実施し、ICT機器を活用した授業開発に取り組んだ。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備、改善は、今後も継続して進める必要がある。 ・生徒一人ひとりの個性と能力を最大限に伸ばし、有意義な学校生活の中で、個々の進路希望を確実に実現できるよう、教育内容については更なる充実をめざすことが求められている。 	<p>生徒 3.3</p> <p>保護者 4.0</p> <p>教員 3.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1グラウンドの人工芝化など、今後も中長期的な計画のもとで施設設備を充実させていく。 ・学校の活性化には、たゆまぬ「学校改革」が必要であることを、教職員全員の共通認識としていく。 ・授業評価アンケートなどを活用し、組織的に授業改善に取り組んでいく。 ・本校の取り組みを、校内外へ積極的に情報発信し、理解と賛同が得られるように努めていく。
学習指導	<p>①家庭学習の習慣化のための具体的方策を検討・実施する。</p> <p>②わかりやすい授業展開を基本にし、主体的で能動的な取り組みを中心にした生徒参加型授業の実施によって、生徒の学力向上をめざす。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育機器の拡充にともない、展開を工夫した効果的な授業が可能となった。 ・学習指導において、計画的な家庭学習課題の設定が重要であることを教員間で共有し意識した結果、生徒の学習習慣定着に一定の効果をあげることができた。 ・アンケートでは学習指導に関するポイントが昨年度よりも上がり、学校全体で学習指導に対する関心が高くなった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より分かりやすい授業を展開し、確実に学力をつけるためには、ICT機器の利用方法を含め、更なる授業研究が必要である。 	<p>生徒 3.1</p> <p>保護者 3.4</p> <p>教員 3.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修では、ICTスキルの向上とあわせ、「授業の実践報告」、「生徒参加型学習の組み立て方」、「家庭学習」などについても取り上げ、意見交換や情報交換をおこなっていく。
クラス指導	<p>①生活指導を重視して「躰」の徹底をはかる。</p> <p>②生徒・保護者との信頼関係を構築し、充実した学校生活を図る。</p> <p>③教室の整理整頓を常に心がけ、クラス環境の充実に努める。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは「生徒同士の人間関係」や「学校生活に対する満足感」の項目で、生徒・保護者から高評価を得た。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員が学校生活をより充実できるよう、個々の生徒に目を向け、丁寧に指導していくことの重要性を、すべての教員に浸透させる工夫が必要である。 	<p>生徒 3.6</p> <p>保護者 3.9</p> <p>教員 3.9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より良いクラスの雰囲気を確認させるため、日常的に保護者との連絡を密にする。 ・学校生活の中で、教員から積極的にコミュニケーションをとり、生徒個々の特性把握に努める。
生活指導	<p>①日常生活におけるマナーやモラル、校内ルールを守らせる指導を徹底する。</p> <p>②生徒・教職員ともに明るい挨拶を励行する。</p> <p>③服装・髪型といった「身だしなみ」指導の徹底をはかる。</p> <p>④学年毎に生徒指導部講話を開催し、心の成長を促す。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における、生徒の礼儀・挨拶・マナーに関しては自覚を持たせる指導ができた。 ・心の成長を促すための企画においては一定の成果があった。 ・アンケートでは生活指導に関する全ての項目で生徒・保護者ともに高い評価を得ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外での立ち居振舞など、公共マナーに関してさらに指導が必要な部分がある。 ・スマートフォンなどの普及で、使用マナーを含めた人間関係の築きかたに関して深く考えさせる企画を継続して作る必要がある。 ・「いじめを許さない学校づくり」キャンペーンを更に定着させ、人権意識を高めていく必要がある。 	<p>生徒 4.0</p> <p>保護者 4.2</p> <p>教員 3.9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を年度当初に示し周知することで、学校をあげ組織的に生活指導にあたる体制をつくる。 ・スマートフォン(SNS)などのトラブルを未然に防ぐための企画を定期的実施する。 ・いじめに関する情報は全教員で共有し、組織的に対応して早期解決をめざす。 ・「学校いじめ防止基本方針」は毎年全教職員に周知する。

2017年度学校自己評価

東海大学付属市原望洋高等学校

評価5～1は(5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
進路指導	<p>①自己の理解の深化と自己受容、職業観・勤労観の確立、そして将来設計の立案など、高校1年次からの継続的なキャリア教育を推進する。</p> <p>②東海大学との連携を強化し、生徒・保護者が付属推薦制度をしっかりと理解できる進路指導を推進する。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 東海大学教員による「高校訪問」「学科説明会」の充実で、付属推薦や学部学科に関する情報をより多く提供することができた。 学年集会を利用した進路学習を通じて、東海大学への付属推薦を含め進路全般に対する意識の向上を図ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者がよりきめ細かい情報を得られるよう、オープンキャンパスの実施内容などについて東海大学との連携をより密にしていこうと求められている。 丁寧かつ細やかな進路指導のための教員研修をより充実させていく必要がある。 	<p>生徒 3.7</p> <p>保護者 3.9</p> <p>教員 3.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者への進路に関する情報提供のため進路説明会(保護者参加)を計画するなど、進路志望の早期決定を援助する。 東海大学以外を受験する生徒に対しても説明会を実施し、大学受験の現状を踏まえ、適切な進路指導を行う。 2018年度入学生からは大きく大学受験システムが変わるため、「classi」や「進路サポート」などの進路と学習を支援するツールを導入して早い時期から対応していく。
特別活動	<p>①部活動を通して、人間関係を構築し、連帯感と達成感を学び、視野の広い人材を育成する。</p> <p>②生徒会活動や学校行事などを通じて、生徒の能動的な活動を推進し、協調性や自立心、責任感を育てる。</p> <p>③海外英語研修、中高生の科学研究実践活動推進プログラム、特別理科講座(BSSP)などの校外での学習も充実させる。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動では陸上競技部、射撃部の全国大会出場をはじめ、野球部、ソフトボール部、男子バレーボール部が千葉県ベスト4に輝いた。また女子バレーボール部が久しぶりにベスト8に進出した。 学校行事や委員会活動に対して、生徒主体の参加が見られるようになってきた。 保護者と学校の連携が図られ、部活動が展開されている。 ハワイ東海インターナショナルカレッジ(HTIC)で行われた英語研修では、生徒の積極的な取り組みが見られ、研修以降の学習に対する意識を高めることができた。 科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」では、参加生徒自らが課題を発見し解決する力を育成することができた。 特別理科講座では学外の機関と連携し、[医療][人間工学][宇宙探査]の3テーマの学習を行い、生徒の新たな興味・関心を引き出すことができた。(連携機関: 日本科学未来館、千葉市科学館、JAXA、東海大学医学部、東海大学工学部) <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別活動に参加する生徒の満足度を上げるとともに、積極性、協調性、自立心などの涵養につながる活動となるよう更なる内容の充実をめざしていく必要がある。 	<p>生徒 3.7</p> <p>保護者 4.0</p> <p>教員 4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動と部活動の両立をさらに推進するとともに、生徒の自主性や自立を重んじた指導スタイルの構築をはかる。 勝利至上主義にとらわれず、部活動を通して、教室では学ぶことのできない体験を提供できるよう指導を工夫していく。 校外での学習をより充実させるために、連携機関と各教科の打ち合わせを密にしながら進めていく。
その他	<p>評価にあたっては、保護者・生徒・教職員ごとのアンケートを実施し、クロス集計によって傾向を分析した。</p>			